

## 2009年度オープンカレッジ春学期開講科目簡易ガイド

このガイドは2008年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。2009年度は内容が変更される科目が出る可能性があります。また、聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバス(ほぼ2009年度版)や中部大学ホームページのシラバス(2008年度版)を、是非ご参照ください。

分野	科目名	No	担当者	ガイド
機械・電気・電子・建築・土木・化学・情報処理	機械材料学B	1	山口 隆生	各種金属材料の特性を充分理解しその材料の特性をいかんなく引き出して使用できることを目的とする。また、省エネルギー化や環境に優しい適切な材料を選択することによる、安価で小型・軽量の機械の製造について。
	放電・絶縁工学	2	松岡 良輔	合理的な絶縁設計のための絶縁破壊現象や絶縁破壊特性を求めことや、放電・絶縁破壊試験に必要な高電圧の発生、測定、絶縁試験の基本的な考え方について。
	プラズマエレクトロニクス	3	池澤 俊治郎	EBEPの特性とプラズマの電子密度・電子温度・プラズマ電位の測定法や、新素材特に太陽電池用大面積アモルファスシリコン製膜とダイヤモンドライクカーボン製膜、光触媒のプラズマによるコーティング技術やドライメッキ法について。
	デジタル計測	4	葛谷 幹夫	エレクトロニクス技術を利用した各種計測システムについて講義する。各種センサーの原理と用途、デジタル計測法と信号処理の仕組み、デジタル計測システムに関する基礎知識とその応用法について。
	環境計画プロセス	5	磯部 友彦 服部 敦	科学的な計画策定を進めるに当たって必要なプロセスのあり方ならびに統計モデル解析の基礎理論を講ずる。
	都市景観デザイン	6	塩見 弘幸	土木技術者本来の使命観にたち、快適で美しい構造物や施設を創造するための広い視野と感性を身につける。
	建築と社会A	7	渡辺 純 脇田 健裕 後藤 武 猪岡 達夫	現代社会と建築の関係を問題ごとに整理して捉え、考察し得た見識を持つ専門家となることを図る。オムニバス形式で、4人の講師が順に担当する。
	基礎化学工学	8	佐藤 厚	化学工学の基礎となる物質収支、エネルギー収支、移動現象等を学ぶことにより、物質やエネルギーの流れを数量によつて的確に把握できる能力を身につける。
	分析化学	9	石川 英里	酸化還元反応や電位差分析法、液-液分配平衡、イオン交換平衡を学習し、さらに分析データの評価と整理の手法を学び、化学技術者として必要な基礎力をつける。
	画像情報処理	10	藤吉 弘巨	デジタル画像に関する種々の処理技術を修得し、講義および演習を通じて実際に画像処理がどのように応用されているか理解を深める。
	計算論とプログラミング言語論	11	奥居 哲	Schemeと呼ばれるプログラミング言語とその設計基盤である $\lambda$ -計算と呼ばれる計算モデルを用いて、様々な言語に共通する基盤となる概念や方法論を習得する。

自然科学	数理科学	12	竹中 俊美	コンピュータの発達とともに、多様な方面に進出してきた数学の新しい活動範囲である数理科学について。
	地球の科学A	13	山田 功夫	惑星探査で得られた情報を解説し、太陽系における地球の特異性やその存在を理解する。また、地震波や地磁気の観測から地球内部を解説し、地震発生や火山噴火のメカニズムを知る。
	微分積分学	14	小林 礼人	自然科学や工学の各分野において、さらに広くは経済学・社会科学などの分野においても必要不可欠な数学となっている微分積分の諸概念を理解し、それを活用する力や一般的な数学的思考能力を養う。
		15	手嶋 忠之	
		16	淵野 昌	
	線形代数	17	奥村 吉孝	行列の行基本操作を導入して、それによって連立一次方程式を具体的に解く方法について、また、より高次の行列式の計算の方法や逆行列の求め方について。
	物理学B	18	吉福 康郎	電氣的、磁氣的現象に関する法則を記述する電磁気学の基礎について学び、物理的な考え方や数学的な扱いについて理解し、工学を学ぶ基礎づくりをする。
		19	村岡 克紀	
物理学C	20	大木戸 貞夫	物理学の根幹をなす一つの分野であり、将来においても、エネルギー、資源、環境の問題においてますますその重要性が増すものと思われる熱学の、熱力学と統計力学の基本的な考え方について。	
	21	宮島 佐介		
物理学D	22	奥村 吉孝	相対性理論や量子力学の基礎的な理論に基づいて、原子・分子の諸性質、物質の物性、宇宙における現象をとりあつかう学問について講義する。	

このガイドは2008年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。2009年度は内容が変更される科目が出る可能性があります。また、聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバス(ほぼ2009年度版)や中部大学ホームページのシラバス(2008年度版)を、是非ご参照ください。

分野	科目名	No	担当者	ガイド
経済・経営・商業・情報	経済政策	23	石田 昌夫	国の経済にとって望ましい最適状態とはどうあるべきか、またそれを達成する手段や最も効果的手段の決定方法について、問題・課題を明らかにする。「経済原論」・「日本経済入門」などの基礎履修を前提とし、政策の一般論について。
	社会政策	24	石田 昌夫	社会保障制度の意義、制度の概要、構造と問題点、費用負担問題について。経済学の基礎理論と経済政策論を踏まえた応用科目。
	経営学入門	25	大津 誠	主としてアメリカの経営学のアプローチにもとづき、現代企業の仕組みを理解することを目的とする。会計、財務、マーケティング、組織、人的資源管理等、経営の個別の機能に関する専門科目の基礎となる。
	経営史	26	小早川 洋一	主としてアメリカと日本におけるビジネスの発展について、「経営戦略と組織」に注目し、現代経営における経営戦略と経営組織とを考察するための基礎的な概念を理解する。
	オーガニゼーション	27	辻村 宏和	組織づくりのハード面(組織構造論)から起業する者をイメージし、経営の根幹に当たる組織づくりがいかに大切で、どれほどデンジャラスなものかを、いくつかの事例を交えながら組織の病理を伝える。
	金融論	28	土屋 大二郎	貨幣とは何か、利子率とは何か、経済と金融の諸問題、金融政策等について日常生活とのかかわりの中で、解説する。「経済原論」や「会計学原理」などの基礎知識を習得した学生が対象。
	組織行動論	29	寺澤 朝子	組織の中の人間像、代表的な欲求理論や動機づけ理論、組織をつくっていくプロセス、組織が存続するために個人に与える影響のメカニズムについて考える。
	入門簿記	30	阿部 仁	企業が帳簿記録に基づいて財務諸表とよばれる計算書類を作成するまでの商業簿記の基本原理について。
		31	仁川 栄寿	
	上級簿記論	32	阿部 仁	入門簿記、簿記原理で取得した知識を前提に基礎的な知識を再確認するとともに、日商簿記検定試験2級の範囲の前半部分について講義と演習を併用する。
		33	仁川 栄寿	
	人的資源マネジメント	34	成 惠善	人事・労務管理、人的資源管理、人材マネジメント等、企業経営における人の問題についての基本的な理解を図る。
	多国籍企業論	35	成 惠善	国際経営・グローバル経営の担い手である多国籍企業に関連する諸問題を検討し、多国籍企業・グローバル企業についての基礎的な知識や理論を理解する。
	経営法学入門	36	牧野 英克	事業の開始から、事業拡大、その事業撤退までのプロセスに関する、会社形態、経営構造、営業活動、技術、情報、生産、人事、事業提携、国際活動、紛争対応などの切り口から主要な関連法制の基礎について。
	現代契約法	37	牧野 英克	商事取引に関する契約問題を民法と商法の関係条文を中心に解説し、契約法の基礎から契約書作成・検討までをカバーする契約実務を学習対象とする。
	特別講義A	38	山下 裕丈	「ものづくり」とそれを支える管理技術を通じて、製造業の仕組みと役割について。
		39	舛山 誠一	
	経営戦略論	40	森岡 孝文	資源ベースに基づいた企業戦略の策定・実行の両面について理論と実践の視点から企業戦略を分析する。
		41	三木 國愛	
	起業家育成論	42	森岡 孝文	起業家として重要な意思決定を行えるような分析能力、ビジネスプランの作成、アイデアをビジネス化する経営能力を身に付ける。
経営財務論	43	宮 俊一郎	企業の投資分析に必要な考え方の枠組みを理解し、そこで得た知識を実践に適用できるように、練習問題を通して修練を積む。自分で情報を加工し、投資判断を下せるだけのスキルに高めることが目標。	
経営分析論	44	宮 俊一郎	会社の収益性や安全性や成長性を会計データにもとづいて分析するための考え方の枠組みと具体的な分析手法について。会計科目で学習した財務諸表の知識を前提とする。	
コンピュータ科学	45	浅野 寿朗	プログラミングその他の情報技術を理解するための基礎事項である、デジタルデータの表現方法、圧縮方法、信頼性対策、高速処理手順などを習得する。	
国際会計論A	46	阿部 仁	会計の国際化についての状況を理解するとともに、日本の基準と国際基準の相違点を明らかにし会計基準の統一への可能性について考察する。会計学の基礎的な知識を前提とする。	

このガイドは2008年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。2009年度は内容が変更される科目が出る可能性があります。また、聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバス(ほぼ2009年度版)や中部大学ホームページのシラバス(2008年度版)を、是非ご参照ください。

分野	科目名	No	担当者	ガイド
経済・経営・商業・情報	シミュレーション入門(要PC)	47	足達 義則	表計算ソフトExcelを使って基礎的な数学を取り扱い、現実モデルを数学的に解析する。
	情報リテラシーA	48	高橋 道郎	日々変化している情報技術を活用する能力を養う。パソコンの基本的操作(タイピング・ワード・パワーポイント・検索エンジン等)について。
		49	前田 和昭	コンピュータの代表的なソフトウェアの操作方法を学びながら、効果的かつ効率的に情報を扱えるようにすることを目的とする。
	会計情報システム論A	50	竹森 一正	入門簿記、簿記原理、上級簿記論、会計学A、会計学B、原価計算論、原価管理論をパソコン(エクセル)を使って解いていく。
	管理会計論A	51	竹森 一正	意思決定の会計理論である管理会計を、会計の俯瞰、経営分析、ライフサイクル・コスト、研究開発会計、キャッシュ・フロー会計などから、多角的に知識を深める。
		52	山北 晴雄	財務会計と管理会計の違いを理解した上で、管理会計で使用される原価の種類、原価と売上高および利益との関係、直接原価計算と全部原価計算の構造の違いなどについて。
	ソフトウェア科学	53	前田 和昭	プログラミング言語を解析するためのプログラム「コンパイラ」について、字句解析と構文解析を中心として進める。プログラム言語基礎とプログラム言語応用の内容を理解していることが望ましい。
工業簿記論	54	山北 晴雄	製造業に適用される工業簿記の体系を理解するための原価計算の基本を習得する。	

国際関係・異文化・宗教	東南アジアを知る	55	鷓野 公郎	シラバス準備中のため、未定。
	東アジアを知るA	56	曾 文彬	東アジア地域の全体像と中国の歴史、文化、政治、経済、また日中関係や東アジア共同体の動きについて。
	ヨーロッパを知る	57	水野 豊	近代市民革命や産業革命、西ヨーロッパの歴史・文化的背景と現代社会の問題点について考察する。
	経済学概論	58	戸田 優男	経済学の諸理論について、入門レベルから中級レベルまで。
	国際政治学	59	羽後 静子	戦後アメリカを中心に発展した国際政治学、国際関係論の歴史的系譜や新現実主義に批判的な立場をとったネオグラムシアンと呼ばれる批判理論について。
	国際経済学	60	戸田 優男	国際経済の仕組、変動、互いの影響について、「理論」と「実際」の両面から学んでいく。
	国際協力論	61	青木 澄夫	MDGsや人間開発、人間の安全保障など、最近の新しい国際的潮流を踏まえ、国際社会における、日本のODAを含む開発援助の過去、現在、未来を考える。
	開発経済学	62	田中 高	開発の考え方を、発展途上国の定義、開発政策、先進国との貿易・経済協力の両面から、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの具体例を交えながら解説する。
	国際公共政策論	63	羅 立新	公私分担と公共政策のあり方について、国際比較の視点を踏まえ、社会保障、環境政策、地域復興、公共事業など、具体的な政策課題を取り上げながら、理論的・歴史的に課題の解決を探っていく。
	社会開発論	64	野田 真里	途上国はもとより我が国をはじめ先進国を含めて、地球社会全体が直面する貧困・格差の問題に対し、社会開発をつうじてどう取り組むかについて検討し、「地球規模で考え、地域で行動する」地球市民としての能力を育成する。
	貿易論	65	原田 太津男	国際関係論・国際経済入門等の基礎知識を土台にして国際貿易に関する基礎的な用語・概念についてまなび、日本語・英語の両方でマスターする。
	人間安全保障論	66	野田 真里	「グローバル化と人々の安心・安全な暮らし」をテーマに、人間の安全保障(human security)の観点、つまり人間一人ひとりに焦点を当てた民衆中心の視点にたち、保護とエンパワメントをつうじて、いかに人々の安心・安全な暮らしを実現するかについて検討する。
	文化と開発	67	曾 文彬	中国文化を中心に、文化の基本的な知識や重要性について、また中国の開発の実情と日本の北海道開発の経験などから開発推進の計画・政策・資金調達について、さらに文化と開発との関係を明らかにする。
	地域研究特殊講義	68	渡辺 欣雄	アジアの歴史・文化の交差点にあっただけでなく、世界の特定地域を越えた文化特徴を保持してきた沖縄文化を通して世界的な人類文化の理解を試みる。
言語文化研究B	69	堀内 勝	メソポタミア文明と楔形文字、エジプト文明と象形文字、ユダヤ・キリスト文明とヘブライ語・シリア語、イスラム文明とアラビア語など文明と文字の相関を探る。また、漢字の起源・構造、仮名の誕生、その特徴と文化との諸相の関係を観てゆく。	

このガイドは2008年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。2009年度は内容が変更される科目が出る可能性があります。また、聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバス(ほぼ2009年度版)や中部大学ホームページのシラバス(2008年度版)を、是非ご参照ください。

分野	科目名	No	担当者	ガイド
国際関係・異文化・宗教	英米文化論	70	財部 香枝	前半は、アメリカ合衆国の首都ワシントンD.C.にあるスミソニアン博物館の各種展示を検討し、アメリカ合衆国における多様な文化について理解する。後半は、Voice of Americaから旬のトピックを取り上げる。
	アジア文化論	71	黄 強	中国の世界遺産を通して、中国の文化、思想、習慣および中国人の性格・精神などについて理解する。主に中国語を勉強した学生を対象とする。
	他文化研究特殊講義	72	和崎 春日	主にアフリカ社会を中心に、採集・狩猟文化や牧畜文化などから、他文化の行動様式や価値意識・慣行をとりあげ、そこにある「地球を生きる」工夫の凝集を学び、地球の「南側」世界、発展途上国、「未開」社会の文化のなかにある合理性、科学性をすくい上げる。
	文化人類学	73	渡辺 欣雄	文化人類学における「文化」概念の成立と発展の歴史、及び霊長類の人類化の歴史、現代における人類学者の認識や見解、とくに最近の人類遺伝学の成果などについて。
	言語学	74	今村 洋美	言語学の核となる音韻論、形態論、統語論の各分野の外界をなす意味論、語用論、社会言語学、心理言語学などについて。
	社会思想史	75	小島 亮	ヨーロッパ近代社会思想の論理を歴史的に展望する概説である。
	宗教人類学	76	黄 強	現地調査で得た宗教人類学的データ、写真等の視覚的教材を多用しながら、中国各民族の宗教信仰の具体的な状況を紹介する。多種多様な宗教信仰についての基礎的な知識の修得と共に、諸宗教信仰についての理解力や分析力を養う。
	人間と環境	77	渋谷 鎮明	人間の側から見た自然環境の姿や環境利用について、具体的な研究の事例と、その視点やアプローチ方法について述べる。また、日本のさまざまな自然環境と人間の生活について、いくつかのトピックをとりあげて講義を進める。
	社会調査法	78	ウルリッヒ メーワルト	実証的・経験的な社会調査の方法の入門。社会調査の様々なタイプの紹介、調査の実施、データの分析と解釈、データ入手等を具体的に説明する。
	比較宗教学	79	中山 紀子	日本の宗教の歴史的展開から現代日本の宗教的状况を中心に、宗教と社会の関わりを理解する。
	社会心理学	80	榊原 國城	会社や家庭および親しい仲間同士での、人間の能力や意識・行動と人間の置かれた外的環境との相互関連性を理解する。
	考古学	81	中野 智章	考古学における歴史を復元しようと試みる様々な方法の実際について、エジプトにおける研究例などを参照しながら、過去はもちろん現在やひいては未来の文化についても「物」を通して考える力を身につける。
	日本の歴史と文化	82	林 順子	17～19世紀の江戸時代の人々の生き方を紹介し自国の生活文化の特性を確認する。
	西洋美術史	83	千葉 成夫	美術の初源から現代の美術まで、代表的な作品群のスライド等を見ながら、西欧美術の流れを概観する。
	音声学	84	野田 恵剛	発音に関する調音音声学の基本について。
比較言語学	85	野田 恵剛	言語間の比較に基づいた言語の史的発展の様相から、言語の変化のようすや祖語の再建、世界の言語間の関係について理解する。	

日本語・日本文化	日本語講義A	86	堀江 裕子	現代日本語を、「音声」の観点から客観的に捉え、音声学・音韻論の基礎的な知識、および、今まで無意識に習得されてきた「日本語の音声の特徴」について。
	日本語教授法A	87	小森 早江子	日本語を母語としない人に「外国語として日本語を教える」とはどういうことを学び、日本語教授法の実践的な技能を修得する。
	近現代文学講読A	88	杉本 和弘	明治以降の家族を中心的テーマにした短編小説を時代順に読み、作品の読解方法や近代日本文学の大きな流れ、および家族に関わる様々な問題について。
	日本文化文献講読A	89	越川 次郎	医療と文化の問題について、テキストの内容を踏まえ、様々な医療の問題や研究方法論などについて説明を行う。
	日本の文化A	90	大山 誠一	古代国家の形成過程における 聖徳太子 像の成立の謎の解明を通じて、「古事記」「日本書紀」「万葉集」などの文献や金石文史料、「隋書」などの外国文献から真実の歴史を探究する。
	日本語学入門A	91	古瀬 順一	現代日本語の「音韻・音声・アクセント」や「方言」について特徴を明らかにし、音の面の特徴を探る。さらに日本語学のアクセント論を展開する。
	古典文学講読A	92	岡本 聡	木下長嘯子の歌文集『拳白集』(慶安二年版本)を講読して、様々な近世初期の文人との交流と寛永文化の魅力に触れる。また、芭蕉や其角など元禄文化につながっていく文学的影響などを確認し、寛永文化から元禄文化への流れをも考察する。

このガイドは2008年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。2009年度は内容が変更される科目が出る可能性があります。また、聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバス(ほぼ2009年度版)や中部大学ホームページのシラバス(2008年度版)を、是非ご参照ください。

分野	科目名	No	担当者	ガイド
英語・ 英米文化	英語の発音A	93	ヤーッコラ 伊勢井敏子	語彙レベルで英語母音および子音を学習して、英語音を分析的に理解し、日本語音との違いを認識する。また、自分の声を録音し、弱点の分析をする。
	英米の文学A	94	島津 信子	文学作品の読み方の基礎を学び、19世紀を舞台にした教養小説 Jane Eyre を通して、セクションごとに代表的な文学理論を一つ使い解釈していく。同じ作品でも様々な異なった解釈ができることを理解する。
	英米の歴史A	95	本内 直樹	英米諸国の資本主義経済の歩みと社会変化を振り返り、英米経済の発展・停滞・再生といった諸局面がもたらす、世界規模での社会構造や人々の日常性への影響について理解を深める。
	英語学特講A	96	ヤーッコラ 伊勢井敏子	英語音声の様々な現象を音声分析ソフト上で視覚的に確認し理解する。また、英語母語話者と日本語話者(自分)の英語音声を録音・解析し、比較する。
	英米文化特講A	97	島津 信子	1960年の公民権運動から現在までのアメリカ社会の主な出来事を、映画・小説・ポピュラーソング・雑誌記事などを使い、政治的・社会的な背景を踏まえ文化や価値観の移り変わりについて考察する。
	応用言語学入門A	98	松原 勝子	外国語学習者として言語に関連する様々な分野の研究やトピックスに親しみ、応用言語学の基礎的な知識を身につける。
	日・欧・米比較文化論A	99	本内 直樹	戦後復興期から経済成長期に至るまでの日本とイギリスにおける大衆文化の現れ方とその性格を比較概観していく。
	スペシャルトピックスA	100	チャールズ サンディ	ISSUES IN BILINGUALISM --The purposes of the course are to learn about bilingualism and in the process to learn more English. This is a high-level course,taught in English, which requires a lot of work both in and out of class .
	ディスカッションA	101	グレゴリー キング	This course is designed so that students will gain some insight into lives of real Americans and help them to understand a bit of American culture. During each class students will watch a short video about a person in America. They are then expected to express their opinions about what they saw in the video.
	異文化コミュニケーション論A	102	塩澤 正	異文化間コミュニケーションに関する知識を増やし、文化相対主義に基づく非差別的な態度を身につけ、積極的に異文化を持つ人間と行動することができるための基礎力を養成する。

コミュニ ケーション・ メディア・ ジャーナ リズム	現代文化史A	103	井上 輝夫	代社会を形づくっている文化や制度がおおくの場合、歴史的な産物であることを理解し、中世のキリスト教的な世界観が天文学の諸発見によって崩壊し、人間と自然への新しい見方が生まれた歴史をたどってゆく。
	社会学A	104	都築 耕生	社会学において、一見混沌とした社会の諸現象を、どのように科学の対象として研究してきたか、その考え方について。
	心理学A	105	西野 泰代	心のメカニズムや行動の理解の基礎的な知識を習得し、特に認知心理学を柱として構成し、学習心理学や発達心理学の知見も織り交ぜながら講義を行う。
	言語コミュニケーションA	106	平本 毅	「社会」の中での実際の言語使用(言語コミュニケーション)に関する基礎的な理論について。
	コミュニケーション論A	107	松本 健太郎	コミュニケーション学やメディア論の基礎知識やメディアテクノロジーの発達によって人類のコミュニケーション形態がどのように変化してきたのかについて。
	メディアと歴史A	108	和田 伸一郎	メディア環境の変貌を踏まえつつ、事件をどのように知って、見て、理解すればいいかについて。
	現代芸術	109	山本 さつき	起点を20世紀初頭に据え、キーワードごとに歴史、社会的・思想的背景、具体的作品・作家、今日に及ぼす影響などについて触れ、今日の表現文化としての美術を立体的に理解する。
	映像分析A	110	小川 順子	映像の基本的な知識や用語を踏まえ、映画の文法や分析方法について。
	比較文化論A	111	宮下 十有	「文化の違い」の意味や本質、また私たちの生活にどのような影響を与えるかについて、言語、技術、家族、宗教等を中心に考察する。
	メディア産業論A	112	福田 功	メディア間の競争・融合関係が多様化する昨今、メディアの発展過程をたどり、市民生活や地域の活性化にどんな役割を果たしてきたか、今後の役割はどう変化していくか、視野を広げて考える。

このガイドは2008年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。2009年度は内容が変更される科目が出る可能性があります。また、聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバス(ほぼ2009年度版)や中部大学ホームページのシラバス(2008年度版)を、是非ご参照ください。

分野	科目名	No	担当者	ガイド
コミュニケーション・メディア・ジャーナリズム	表現と倫理A	113	大橋 弘	人権観、プライバシー観、テロと報道、情報公開と個人情報保護等を識ることによって表現と倫理の関係にメスを入れ、報道倫理とは何かを検討する。
	メディアの法と規制	114	藤枝 律子	表現の自由の保障とその制約や、プライバシー・肖像権・著作権の侵害・名誉毀損などメディアによる人権侵害について、事例を挙げて検討する。
	ジャーナリズム論	115	栗木 千恵子	マス・メディアの機能としてのジャーナリズムを、情報操作の観点から歴史的に検証し、情報と情報分析の大切さを学ぶ。
	情報流通研究	116	柴崎 彬	日本のメディアの現状を把握し、広告とメディア、視聴率と番組、法規制に現れる国のメディア政策など、実際の事例を取り上げ考察する。
	活字ジャーナリズム史	117	大橋 弘	新聞による情報をもたらす影響、新聞が社会に果たす役割、また新聞とインターネット情報の共存について考察する。
	新聞研究A	118	大橋 弘	新聞の存在意義を明らかにし、その役割を総合的に把握すると共に、現代の新聞づくりの実態について。
	放送ジャーナリズム史	119	川田 武	現代のメディアの中で、最も強い影響力を持つといわれる放送(主にテレビ)がどのように発達してきたのかについて論じる。
	テレビ放送研究A	120	齋藤 宏保	テレビの歴史や役割、問題点や今後の進化について。
	対人コミュニケーション	121	平本 毅	対人コミュニケーションの包括的な理解や実践的な人付き合い、またインターネット上での対人コミュニケーションについて。
	社会とことば	122	柳谷 啓子	どのような社会的要因が組み合わさるとどのような話し方が選ばれるかという、「固定的(静的)な対応関係」の研究手法やその成果について。
	地域とコミュニケーション	123	安藤 純子	国家と地域社会との関係、地域住民の地域社会とのかかわり方について。
	広告とコミュニケーション	124	葉口 英子	広告の機能や役割を理解し、身近な広告事例を分析と議論し、「広告とコミュニケーション」への理解を深める。
	映画史A	125	小林 貞弘	映画とその歴史に関する基本的な知識と各年代の社会情勢・時代状況について考察する。(映画の誕生から1940年代半ばまで)
	映画研究A	126	小川 順子	映画を通して文化的事象を理解し、様々な角度から映画を読み解き、その背景にある社会・文化の有様を考察する。
映像分析B	127	葉口 英子	語り、視点、フィクションの問題に着目し、映画、PV、アニメをはじめとする事例作品の鑑賞、分析をおこなう。また、記号論的な視点から、映像言語と他の要素(音声、音楽)との関連を考察し、それぞれの映像様式の特長に関する理解を深める。	
音響表現II	128	宇佐美 理	音響作品の制作過程、及び上演過程における様々なコミュニケーションの形成を通して、表現活動がどのような社会性を持ち得るのかを探る。	

心理	健康心理学B	129	小塩 真司	「ストレス」の医学的・心理学的・社会的意味を考察し、関連する様々な心身の障害を理解する。さらに、ストレスの心理学的理論モデルやコーピング・スタイルについて学習し、ストレスを広くパーソナリティ、対人関係、および日常生活と関連づけて理解を深める。
	パーソナリティ心理学	130	小塩 真司	パーソナリティの概念、パーソナリティ心理学の歴史、パーソナリティの測定方法・考え方について。
	臨床心理学A	131	願興寺 礼子	「心」の問題に働きかける生きた研究・実践を目指す。また、臨床心理学の基礎知識を幅広く身につける。
	臨床心理学C	132	吉住 隆弘	子どもの心理臨床学的支援について学ぶ。発達障害および情緒障害の概念を学習し、実際の支援例を通して適切な援助の枠組みについて考える。また親や学校への働きかけなど、問題を抱えた子どもを取り巻く環境への支援のあり方についても議論する。

このガイドは2008年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。2009年度は内容が変更される科目が出る可能性があります。また、聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバス(ほぼ2009年度版)や中部大学ホームページのシラバス(2008年度版)を、是非ご参照ください。

分野	科目名	No	担当者	ガイド
歴史・地理	歴史学の方法A	133	阪上 孝	歴史家の具体的な仕事を取り上げ、その中から「生きた方法」を取り出し、歴史の面白さ、歴史を学ぶことの意味を伝え、歴史学に興味を抱かせる。
	世界の中の日本	134	林 上	資本主義が成立し発展していく過程を追いながら、世界と日本において社会、経済、文化がどのように推移していったかを追究する。主な力点は、経済の発展過程とそのとらえ方にあり、フォーディズム、ポストフォーディズムの各時代において、世界や日本でどのような経済活動が行われたかを考える。
	日本とアジアA	135	山元 貴継	日本、そしてアジア各国の地理的な関係や、それぞれの文化および思想などの土台となっている諸条件についての、基礎的な知識を身につける。
	日本の古代	136	大山 誠一	架空の人物と目される聖徳太子について、いつ、誰が、何のために作り上げた人物なのか、古代国家の形成過程における 聖徳太子 像の成立の謎を考える。
	日本の近世	137	篠宮 雄二	豊臣政権期から開国にいたる日本の近世史全般について概説し、日本近世社会についての知識を深め、近世社会の特質とその変質・解体過程を構造的に把握する。
	日本の近代	138	森田 朋子	維新政府の成立から日英同盟までを視野に入れ近代日本の国際社会への進出について考察する。日本をとりまく国際環境と日本の対応について、基礎的な知識を身につける。
	日本の現代	139	三浦 陽一	昭和史とくに十五年戦争(1931-1945)の経緯を概観する。
	日本思想史	140	丸谷 晃一	近代日本社会における「秩序」観をテーマに、日常的に当たり前と考えられているルール・常識に分析を加え、その意味を考える。
	アジアの歴史A	141	山本 有造	日本を含む東アジアの歴史を取り上げ、東アジア圏をひとつの歴史主体として捉えることが可能であるか、可能だとすれば何故か、をいくつかの歴史事象から考える。
	ヨーロッパの歴史A	142	鷲見 洋一	ヨーロッパの社会・文化・思想について満遍なく理解する。ヨーロッパ文明と文化の歴史について、その総体的な構図と意味を講義形式で取り上げる。
	地域と歴史	143	山元 貴継	「歴史地理学」の研究手法への理解を深めるほか、現在の様々な地域やその特色が、各時代ごとの事情などを背景としていかに形成されたのかについて考える。
	地域と情報	144	渡部 展也	地理空間情報を扱うための効果的なツールとして様々な分野で応用されているGIS(地理情報システム)の基本概念の理解と、実習を通じた基本操作の習得する。 *注意* 受講にあたってはPCの基本的な利活用を習得していることが望まれる。
	地域と産業	145	末田 智樹	地域と産業や企業などの関係性について勉強をする極めて基本的な講義。
	地域とまちづくり	146	大塚 俊幸	まちづくりの考え方や進め方について講義し、さまざまな分野におけるまちづくりの実践例を示しながら、地域の抱えている問題を解決するための方策について考える。
	女性の歴史	147	柳沢 幾美	アメリカの女性の歴史を辿ることで、彼女たちがどのようにして今日のような権利を獲得してきたのかを探り、女性の地位獲得は、自然に起こったのではないことを知る。また、ほんとうに現在のアメリカ女性は男性と同等の権利を獲得しているのかを探る。
	交通の歴史	148	末田 智樹	政治、経済、経営の時代的变化などの背景を考慮し、日本における交通の歴史について考察する。
	アジア地誌	149	山元 貴継	アジアの中でも特に韓国を中心に取り上げ、その特色や、抱えている諸問題について、適切なキーワードを交え、それらが生じてきた過程などについて。
	美術から歴史を探る	150	千葉 成夫	西欧の美術を中心にして、美術史を歴史とクロスオーバーさせ、美術史から一般歴史を理解し、また歴史のなかに美術を見ていくという、新しい視点を体得する。
	芸術	美術の思想と表現	151	千葉 成夫
音楽の表現と歴史		152	鶴田 正道	「モーツァルトの生涯と謎のオペラ」をテーマに映画 アマデウス や、彼の最後のオペラ 魔笛を鑑賞しながら、モーツァルトの 歌劇の謎・面白さの秘密に迫る。
哲学	哲学の世界	153	大滝 朝春	西洋思想の根幹の形成とその展開、変貌の歴史である西洋哲学史を学び、自分自身の思惟活動を改めて確認する視座を得る。
	論理の世界	154	大滝 朝春	古典論理学の基礎的な素養を身につけ、演習を通じて実際に推理の妥当性を判定できる能力を育成する。

このガイドは2008年度シラバス(授業計画)を参考に簡易的に作成したものです。2009年度は内容が変更される科目が出る可能性があります。また、聴講科目決定にあたっては、エクステンションセンターでプリントアウトしたシラバス(ほぼ2009年度版)や中部大学ホームページのシラバス(2008年度版)を、是非ご参照ください。

分野	科目名	No	担当者	ガイド
バイオ・環境・食品	環境問題入門	155	山根 恒夫	環境問題の具体的な事例データや、政治・経済・社会・文化の影響を大きく受ける時事問題的側面から環境問題について講述する。
		156	須藤 千春	環境問題について具体的な事例を提示して、実態、原因、そしてその発現機構を科学的に解明して、解決策を見出すための環境科学について。
	食糧問題入門	157	高村 基治	人口増加、食料不足、そして大量廃棄や環境破壊等が懸念されている食環境を考え、食料をめぐる現状と課題を整理・解説する。さらに食品産業の現状を知ることにより、これらの課題をより身近な問題として考察、対処できるよう理解を深める。
		158	山木 昭平	
	生態学概論	159	南 基泰	植物分類の基本的概念、同定法、種概念について概説し、生態学の基礎を学ぶ。
		160	須藤 千春	生物が自然界において家族、種個体群、群集として存在し、環境に巧みに適応する背景には長大な進化の歴史、環境との相互関係がある。人間による環境の改変が自然界に与える影響、自然保全の必要性、地球環境問題、人類の持続的展開などに関心、理解を深める。
	環境化学	161	寺井 久慈	公害による環境汚染とその修復、地球環境の化学的変質、環境汚染物質の生成過程と環境中での拡散・変質過程、および生態系に及ぼす影響について学習し、対策について考える。
	基礎生理学	162	大塚 健三	動物の生きるしくみを、ヒトだけでなく、他の多くの動物についても学習することにより、比較的にとらえ、進化論的な観点から理解する。またヒトを基準にした場合、超能力と思われる機能をもつ動物の能力について。
		163	毛利 達磨	
	食料資源論	164	和田 俊夫	世界及び日本での生産、流通等の現状、農業、遺伝子組み換え食品、食品のロス(廃棄)等、食料資源について基礎的な知識を身につけることにある。
	生物物理学	165	関村 利朗	遺伝子、発生学、生態学など問題解明の鍵となる視点の統合化を目指し、「生物の形態やパターン形成と進化」の問題を幅広く議論する。
	タンパク質工学	166	小林 猛	タンパク質の精製と結晶化、タンパク質の構造解析方法、遺伝子組み換え操作によるタンパク質の改変、などの先端的な知識、活性な酵素として改変する方法論に習熟する。
	バイオの世界	167	柴井 博四郎	生物学分野における基礎的及び応用的な最新の話題について紹介し、分子模型を使いながら、主要な生体物質である糖、脂肪酸、アミノ酸、核酸に親しみ理解する。
	分析化学	168	山本 敦 鈴木 茂	化学分析の基礎となる化学量論に関する各概念が正しく理解できるようにする。また溶液内での化学平衡の十分な理解によって分析化学をより親しみやすいものに学習する。
微生物遺伝学	169	永井 和夫	遺伝現象の発見、遺伝現象に関わる実体の解明、遺伝子解析、遺伝現象の応用過程を、細菌で得られた成果について。	
生体防御学	170	永井 和夫	生体防御機構である免疫現象につき、その成り立ち、機構、意義、破綻をもたらす結果等につき解説、実態の理解とその応用について。	
生命・医療・看護	生命科学入門	171	杉山 達夫	DNA、RNAおよびタンパク質など生体分子の概説および生命活動での意義ならびにそれら分子間の相互の関わりを平易に講述し、生命活動の分子的成立を理解する。
	疾病病態学概論	172	下方 薫	病気を知らるために正常な人体の構造と機能を総合的に把握し、人体についての基礎知識を学ぶ。
	老年福祉看護論	173	粥川 早苗	老年期における社会的支援やサポートネットワーク並びに在宅高齢者および家族の現状とその役割とケアについて。
	社会福祉学	174	坂野 尚美	個々人、家族、グループ、組織そして地域が持つ問題や課題、ニーズについて考え、文化、民族の多様性、差別、貧困などの事例について理解を深める。
教育	発達臨床心理学	175	古市 真智子	発達上の変化が大きい乳幼児期から児童・思春期にいたる発達過程の中で、子どもが示す様々な発達のゆがみや障害そして心理的問題についての基礎的知識を習得し、発達・心理的支援に対する理解を深める。
	読書と豊かな人生	176	高木 徹	子供の発達・成長にとって読書が果たす重要な役割について考え、読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトークなどの指導法について習得する。
	社会福祉	177	蘇 珍伊 白澤 政和	社会福祉の意義・理念・法体系・制度、及び援助技術の体系を学び、専門性を考察する。また、関連領域と利用者保護制度を理解する。
	精神保健	178	加藤 孝正	精神保健とは何かについて、その歴史について概観し、精神の不健康の意味、精神と身体との関連、精神保健とストレス、危機状況とそれへの介入、各発達段階における危機の特徴とそれへの介入、そしてメンタルヘルス・カウンセリングを取り上げる。